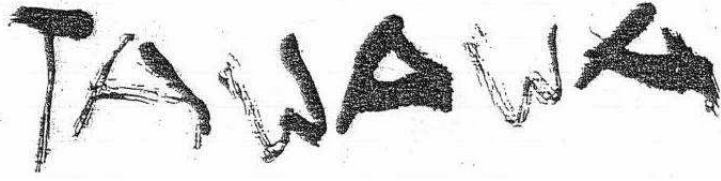


たわわ



地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2005年3月30日

54号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

多彩な市民活動の中で



地域の一員として連帯を

今年の春は、暖かいやら寒いやらよくわかりませんが、公園の桜のつぼみはまだ固く、先駆けて咲くコブシさえ漸く蕾がほころんできた状態でだいぶおくれます。自然界のいとなみのほうが、人間の情報より正確に伝えてくれるようです。

＊

先日、横浜市社会福祉協議会の「よこはまふれあい助成金」の申し込み説明会がありました。この制度はもともとあった国際障害者年記念基金、あいあい基金、ともしび基金が15年度より一体化したもので、16年度はおよそ1000件あまりの助成がおこなわれています。

17年度の助成は、一件30,000円から、1,000,000円まで、活動団体の事業内容や種類によって異なりますが、総額にして1億円にのぼります。

説明会は桜木町にある健康福祉センターホールで、地区別に4回に分けてもたれました。

赤ちゃんのバギーを押した若いお母さんたちのグループや、配食サービスのグループ、障害児・者の活動団体やお年寄りのサークルまで多岐にわたり会場は満員でした。

＊

もうひとつ地域活動団体の多様な活動を知る機会がありました。それは、港北区が主催した、市民団体の情報交換と連携などを目的とした「港北寄りあい処」と言う市民活動活発化に向けた新事業のイベントです。

子育て支援＝親子の居場所作り、防犯活動、小規模授産での活動、子供のための文化活動地域での介護事業、防災活動などの活動団体の報告が行われ、グループに分けて語り合うワークショップなどもおこなわれていました。グループホームのある新吉田町からも参加者があり、思わぬところでよつばホームの状況などをお話しました。

福祉関係だけでなく、鶴見川の状態を保存する会、郷土史を知る会、商店街の問題を探究研究会など、今いろいろなところでさまざまな市民活動が活発におこなわれています。

私たちの「地域で生きる障害者を支える会」も、そうした地域の活動の一つとして、連携していくことが出来れば、いろんな角度から障害者を地域の一員として定着させていくお手伝いが出来るのではないかという気がしました。



グループホーム「よつばホーム」運営委員会の報告

3月28日(月)、新しく出来た新吉田西部町会の会館でよつばホーム運営委員会が開催され、会では来年度の事業計画と予算案についての話し合いが行われました。

昨年発足した「第2よつばホーム」や「よつばホーム」の支援体制について、ヘルパーの状況や職員体制について説明が行われた他、入居者の一人一人の生活時間や過ごし方などについての報告がありました。また、入居者の負担金や生活費などについても説明があり、今後とも、地域の中にご理解をいただけるよう「支える会」とともに取組んで行くことになりました。

次回4月20日(水)の運営委員会では、16年度の決算報告等が行われる予定です。

ともあれ16年度は大きなけがや事故もなく、無事に過ごせました。今後とも1館目、2館目ともに入居者にとって住みよい家になり得るよう一同励んでいきたいと思ひます。

地域交流の集い

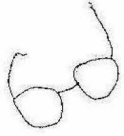


3月19日土曜日、晴天の中「よつばホーム」前にて3回目のミニバザーが開催されました。今年はポスターを貼ってから反響が多く、「バザーの品物に」と衣類や雑貨を新吉田の多くの方々から寄付していただきました。

当日は衣類や雑貨に加え食べ物コーナーも確保し、焼きそば・フランクフルト・パウンドケーキなども販売し、会場には常にいい香りが漂っていました。昨年バザーに来ていただいた方に「今年はもうお赤飯ないの？」などと聞かれたりして(早い時間に売り切れてしまったのです…すみません)、3月のバザーが少しずつ新吉田に浸透してきているのかなあと感じたりもし、こちらも大変嬉しく思ひます。「よつばホーム」、「第2よつばホーム」の入居者もバザーに参加することで新吉田の方々と交流が持て、充実した一日を過ごしていたようです。

バザーに来ていただいたみなさま、品物を提供してくださったみなさま、本当にありがとうございます。来年も3月末に行う予定ですので、今後ともよろしくお願いいたします。

(職員 大谷)



めがねのこえ

まだ週に4日ずつですが グループホームに泊まるようになって思ったことがあります。

私は ことばや手足が不自由なので いろいろな人にお世話になることも多く 車イスで電車に乗れるようになったり パソコンをおぼえたりと いろいろなことを助けていただいたりしました。

その他にも 私の「友だち」は いろいろ教えてくれたり お話をしたり相談をしたりといろいろです。母は 「みんな”お友だち” と呼んじゃうのね ハハハ…」といいますが 私の友だちは 友だちというより先生だったりすることもあるけど 心が通じて わかってもらえれば 年が同じぐらいの人も離れていても 友達に友だちなのかなと おもうのです。

* * *

グループホームとディサービスの 活動ホームを送迎車で往復していて あちらこちらを電動イスででかけることも少なくなると どこかで偶然知っている人に会うことも少なくなりました。



生活クラブの人や ご近所の人達や 民生委員さんや お店の人や ちょっと声をかけてくださる方とか…。ちょつとした知り合いの人との出会いでも なにか自分がとても充実した一日だったような気がして うれしくて帰ってからお茶を飲みながら 家の人に話します。

とくに友だちと言うほどの人でなくても そういう知り合いの人達が 地域で生活すると言うことでは 大切なのだなと思いました。

これからは 休みの時にはいろいろなところへ行ったり いろいろな物を観たり 聞いたり 車イスでまわってみたいなど 思います。

大原 友子

港北を障害者や支援を必要とする人達が安全で楽しく暮らせる町に！

* セイフティーネットへの取り組み！

港北区社会福祉協議会では当事者部会を開き、52号でもお知らせしたように、来年度の活動計画の中に「障害者と支援を必要とする人達のセイフティーネットの構築」をもちこみました。これに先立ってもたれた当事者部会では、ほとんどのメンバーが出席し、さまざまな事例を挙げながら発言し、この運動の必要性をうったえました。

いま準備会では、具体的な取り組みの端緒として、アンケートの検討に入りました。まず、警察や商店会、病院などの非福祉団体向けの質問の内容をはなしあっています。

今月のよつばホーム

よつばホーム

こんにちは。よつばホームです。

まだまだ寒い日もありますが、だんだん春らしくなってきましたね。

よつばホームの大きなイベントの一つである『地域交流バザー』も天気に恵まれ、無事に終わることが出来ました。そんなバザーでの入居者の活躍をご紹介します。

まずは事前に行った準備より。今年はお菓子の詰め合わせも販売するということで、数日前から袋詰めをしました。仕分けから袋詰めまで役割分担を決めて、一つ一つ丁寧に♪

いよいよバザー当日です。フランクフルトや喫茶コーナーで売り子として活躍しました。笑顔でお客さんを引きつけてくれました♪

その他、気に入った商品を購入したり知り合いとお話したり、後片付けに参加したりと。みんなとても楽しんだ様です。

色々と反省点もありましたが、来年も頑張りたいと思います。

ご協力下さいました皆様、大変ありがとうございました。



第2 よつばホーム

♪ハッピーバースデー♪

3月29日 第2よつばホームが1才の誕生日を迎えました。

えっ もう1年経ったの…？早すぎます。本当にあっという間でした。

体験入居を繰り返してスタートした第2よつばホームでしたが、いざスタートしてみると細かい修正点もありました。

体験入居は一日一人しか泊まれませんでした、グループホームでは一度に4名の入居者が泊まります。当たり前のことですが…

ボリュームが増えた分、スムーズに行えないことも出てきたり。

とにかく、入居者、職員共慣れるのに必死だった1年だったように感じます。まだまだ、ヨチヨチ歩きの第2よつばホームですが、先輩のよつばホームを見習い、入居者にとって心地よいグループホーム作りを目指していきたいと思います。

また、重度重複障害者でもグループホームで暮らせる事を、色々な方に知ってもらいたいと思います。

ご入会・ご継続ありがとうございます。(敬称略)《賛助会員》

箴島 義弘

入江 勝通

平成17年3月30日現在